



【表紙写真】

都会の住宅街の中、ひときわ目を引く洗練された建物は、近代建築の巨匠、フランク・ロイド・ライトの設計による「自由学園明日館」。大正時代に女学校として創立されました。貴重なライト建築を見学できるほか、講座開催やイベント利用もできますので、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか（詳細は9頁参照）。

自由学園 明日館

（東京都豊島区西池袋2-31-3）

TEL：03-3971-7535 FAX：03-3971-2570

メール：myonichi@jiyu.jp

【見学について】

通常見学：10：00～16：00（15：30までの入館）

夜間見学日：毎月第3金曜日

18：00～21：00（20：30までの入館）

休日見学日：10：00～17：00（16：30までの入館）

※月1日程度 当館の指定日のみ。

休館日：毎週月曜、年末年始

見学料：建物見学のみ ¥500

喫茶付見学 ¥1,000

※不定休、見学時間の変更などがあるため
事前にWEBサイトをご確認ください。

【アクセス】

池袋駅メトロポリタン口より徒歩5分（JR：山手線・埼京線・湘南新宿ライン・東京メトロ：丸ノ内線・有楽町線・副都心線・東武鉄道：東上線・西武鉄道：池袋線）／目白駅より徒歩7分（JR山手線）



かつての教室は多くの方々の学びの場に

「小さな親切」誌は、季刊発行

春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2026年5月1日発行 通巻542号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866 FAX.03-3263-3838
<https://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社
©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。

奈良県生駒支部の会報『小さなしんせつ』より2編ご紹介します。

「小さな親切」リレーエッセイ

「徒然なるままに」

あいさつが繋ぐ力

生駒市立生駒北小中学校長・小竹 仙哉

毎日普通に交わしているあいさつも十分できなかったコロナ禍が過ぎ、学校内外で元気なあいさつが聞かれるようになりました。あいさつがきっかけとなって、人のつながりが生まれます。

私は、子どもたちの心に郷土愛を育みたいという願いを持っています。そこで地域の方々に、登校時には「行ってらっしゃい」下校時には「おかえりなさい」というあいさつを付け加えていただくようお願いしました。今では登校時に、見守りボランティアさんの「おはようございます。行ってらっしゃい。」と手を振りながらのあいさつに、「おはようございます。行ってきます。」と手を振り返す子どもの姿が見られます。

夕方に地域の方の「おかえりなさい」に、子どもが「ただいま」と返してくれたと聞くようになってきました。あいさつによって、地域の方々に『地域の子ども』という意識が生まれ、子どもたちが「いつも地域の人たちが見守ってくれている」と安心できる関係で繋がることを願いながら、私もあいさつをしています。 2026.3.1発行号より

警察官との約束

前奈良県生駒警察署長・山本 英二

約束どおり、勉強も部活もがんばったよ。卒業コンサートがあるので観に来てください。僕、将来は警察官になります。」

市内の小学校に通う児童が警察署を訪れ、警察官にコンサートの案内を手渡してくれました。母親に尋ねると、「以前、不登校だった息子とどう向き合えばよいかわからず、助けてほしいという一心で警察署に駆け込みました。すると、ある警察官が息子をパトカーに乗せて励ましてくれたのです。それ以来、息子は学校に休むことなく通うようになり、今は金管バンド部でがんばっています。」と話してくれました。

児童は警察官との約束を守り、懸命にがんばってくれていたのです。私たちは一日に何人もの人と出会います。そのシチュエーションは様々であるからこそ、対応が通り一遍なものであってはならず、相手の立場や気持ちを尊重したものでなくてはなりません。

何気ない私たちの言動に人は傷つき、または励まされ、感謝されるものであるということに気づかれ、人の心の琴線に触れる仕事をしようと決意を新たにしました。 2025.6.1発行号より